

# 東京農業大学稲花小学校

学校だより【2022年2月7日】第112号



## 中高・大学は入試シーズン

隣接する東京農業大学第一高等学校・中等部，また，東京農業大学も，入学試験のシーズンです。中等部の合格発表を確かめに来た親子連れを見ると，それぞれの夢がかなったのかどうか気になるところです。また，大学入試の期間はキャンパス入構が厳しく制限されるのですが，農大稲花小の子どもたちについては，キャンパスを通過しての登下校が認められています。大学正門に登校のために集まって来た子どもたちに，「今日は大学の入学試験ですから，迷惑にならないように静かに大学の中を歩きましょう」と説明すると，「私も東京農大の試験受けるつもり！」と言う頼もしい子どもや，「小学校の次は，中学校でしょ？」と言う子どももいて，ほほえましいものです。

入学試験は誰にとっても試練ですが，農大稲花小の子どもたちには，将来どのような進路を考えるにしても，それに挑戦できるだけの学力や精神力を身につけていってほしいと願って教育をしています。小学校は，未来のための土台を作る大事な時期なのです。早く早くと先を急がせるあまり，不安定な土台の上に子どもたちを立たせるようなことになってはいけません。毎日の授業で習うことを確実に身につけ学力として定着させるとともに，友だちとの関係を通してそれぞれの成長に合った社会性やコミュニケーションの力を獲得することにより，ぐらつくことのないしっかりとした土台ができるものと信じています。

## 節分の給食は特別メニュー

2月3日(木)，節分の日の献立は，恵方巻，わかめサラダ，きなこ豆，いわしのつみれ汁，蔵出しみかんでした。恵方巻は調理にも手間がかかったことでしょう。給食を調理する皆さんにも感謝しながら頂いた，特別な日のメニューでした。



給食スタッフが1つ1つ丁寧に作ってくれました。



2月3日(木)の給食



スクールロゴ「みのりマーク」入りの升に豆を入れて飾り付け

## 締めくくりは日本の昆虫で

本校では毎月、一財団法人進化生物学研究所から素晴らしい昆虫標本を、ご提供いただいています。12月は世界で一番大きなゴキブリ、1月は金属光沢が美しいタマムシの仲間と、毎月、子どもたちの眼を釘付けにしてきました。今年度の締めくくりとして2月から貸与していただいているのは、日本のカブトムシとオオムラサキです。良く知っているように思う昆虫ですが、標本としてたくさんの個体を見比べると、その多様であることが理解できます。また、中国産のオオムラサキの標本もあります。昨年、3年生の子どもたちは羽化したオオムラサキを手に乗せてその美しさを実感しましたが、中国にもオオムラサキがいることを知っている人は少ないのではないのでしょうか。



## 第2回入学者説明会はオンラインで

4月に入学予定の児童とその保護者を対象とする入学者説明会。1回目は12月に本校体育館を会場として開催し、制服の採寸なども行いました。しかし、2月5日(土)に予定していた第2回については、新型コロナウイルス感染症の状況から、これをオンライン(オンデマンド)で行うこととしました。入学予定者の保護者には、小学校からの3本の動画とアフタースクールご紹介のための1本の動画を見ていただいています。第4期生となる入学予定者72名は、同期として同じスタートラインに立つこととなります。今後、子ども同士は競争するのではなく、共に育つ仲間です。保護者同士も、子どもたちを共に育てるという気持ちが大切です。また、小学校に入学しても子育ては続きます。マナーをはじめ、様々な良い習慣というものは、ご家庭での指導が欠かせません。

とはいえ、小学校は楽しいところです。入学予定の子どもたちが、4月の入学式を心待ちにしてくれていることを、期待しています。

## 検温・健康観察は続く

農大稲花小では、まん延防止等重点措置が実施されるようになって以来、さらに感染防止の取り組みを強化しています。しかし、感染防止を強調するあまり、感染者やその家族を案じ、寄り添う気持ちを忘れるようなことがあってはいけないと思っています。

一方、新型コロナウイルスに限らず、病気で学校を休んだ場合、あるいはやむなく学級閉鎖になった場合、学習の遅れが気になるところかもしれません。しかし、学習の遅れを気にするよりもまず、家庭で安静にして健康を取り戻すこと、あるいは発病を抑制したり症状を軽微なものにとどめるようにしたりすることが大切です。さらに学級閉鎖などの場合は、その目的を理解して子どもを確実に家庭に留め置き、たとえ発症していない子どもであっても習い事や友だちの家などに外出させないようにすることは、申すまでもありません。また、今週末の3連休は特に、慎重な行動をお願いするところです。

長期的な休校などの措置の場合は学校からの課題を出すこともありますし、オンライン学習をすることになるかもしれません。しかし、課題があれば勉強する、課題が無ければ勉強しない、あるいは、勉強できないという子どもでは困ります。学校が休みの日も、一定の時間は自ら机に向かえる子どもに育てておくことは、将来のためにも必要です。文字の練習や計算の練習を含め今までの学習を復習したり、文章を書いてみたり、読書をしたり、絵を描いたりすることは、課題として課せられなくてもできるはずのことです。配布されている英語の教材も活用できます。とはいえ、小学生、とくに低学年の子どもたちについては自ら学ぶという姿勢もまだおぼつかないため、保護者の皆様のお力を必要とするところです。

検温・健康観察はまだまだ続きます。先のまだ見えない困難な時期ですが、子どもたちの一層の成長を願って、私たち大人も、しばらくは忍耐していきたいと思えます。

校長 夏秋 啓子